

【四月の言葉（令和八年）】

ちっぽけな私たちの限界を知る

「聖道の慈悲というのは、ものをあわれみ、かなしみ、はぐくむなり。しかれども、思うがごとく助けとぐること、きわめてありがたし」

（歎異抄）

※「聖道門と浄土門」

聖道門とは、自力での修行によって悟りを目指す教え。

浄土門とは、他力（阿弥陀仏の本願）によって悟りを開かせていただく教え。

テレビや新聞で報道される世界各地の戦争や暴動、殺人事件や虐待など・・・どれも痛ましく、見ているだけで悲しくなってきました。

しかし、私たちがいくらかわいそうだと思っても、実際にできることには限界があります。

仏教についても同じことがいえます。自分の修行に励んだとしても、私たちには、悟りを得ることも、慈悲の心で人を救うことも難しい。

だからこそ、阿弥陀様の慈悲の心をいただいでいくしかないのです。